



Web版

絆

22

福岡県動物愛護推進員ニュース

福岡県動物愛護推進協議会

<http://www.fukuoka-douai.jp/>



人と動物が共生できる社会づくりのため地域に密着した動物愛護の普及啓発活動ニュース

人と動物の共生と福祉を目指して



動物愛護教室 実施報告



宗像・遠賀 支部

毎年遠賀町ふれあいの里で犬の飼い主さんを対象とした「犬のしつけ方教室」を4日間開催しています。

この事業では1日目で犬の習性や犬の病気等を座学で学び、2～4日目には飼養している愛犬と共に飼い主さんが熱心にしつけの方法を学んでいます。

今年は開催途中に可愛い応援者が人慣れに一役かっている一コマも見られました。

参加した飼い主さんたちの大半から「参加して良かった」「今後もしつけを継続できる」等の声を頂いており、適正飼養の効果としては最適ではないかと感じられました。

今後もしつけ方教室の事業を継続して行っていく予定なのでみなさんの御参加をお待ちしています。



嘉穂・鞍手 支部

管内の小学生を対象に、小学校の先生や動物愛護推進員と協力し動物愛護教室を開きました。

生徒さんたちは、講習や動物との触れ合いを通し動物を飼うことの責任について考え、人や動物に対する思いやりの気持ちと命を大切にすることについて学びました。



犬との接し方について、生徒さんの実践を交えながら説明を行いました。



モルモットとの触れ合いに生徒さんも大喜びです。



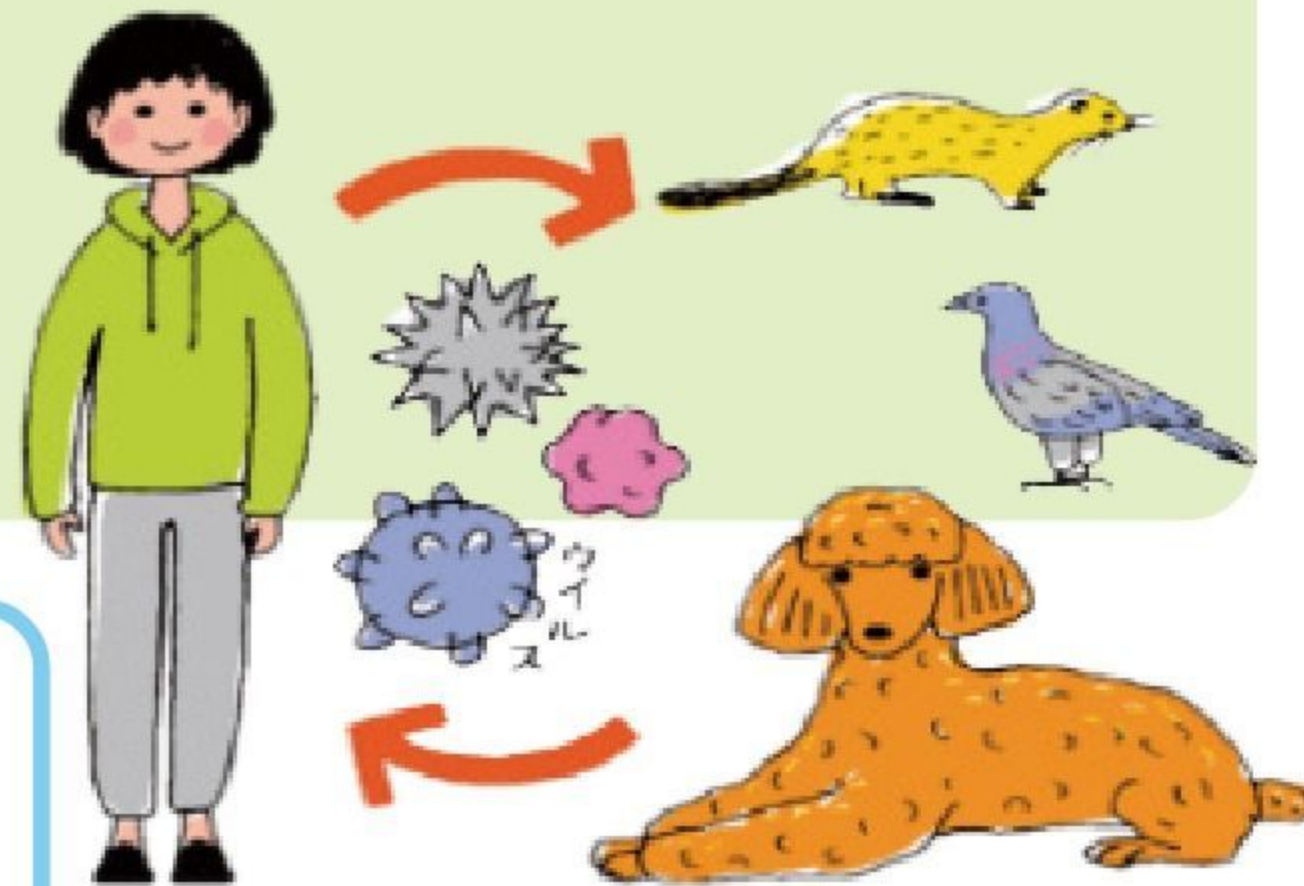
ワンヘルスって知っていますか？

ワンヘルス (One Health) とは、人と動物、そして環境の健康は1つと考えて、守っていくために、医師や獣医師、環境の専門家や研究者も一緒に、みんなで考えて行動することです。

「ワンヘルス」を進めるための6つの基本指針

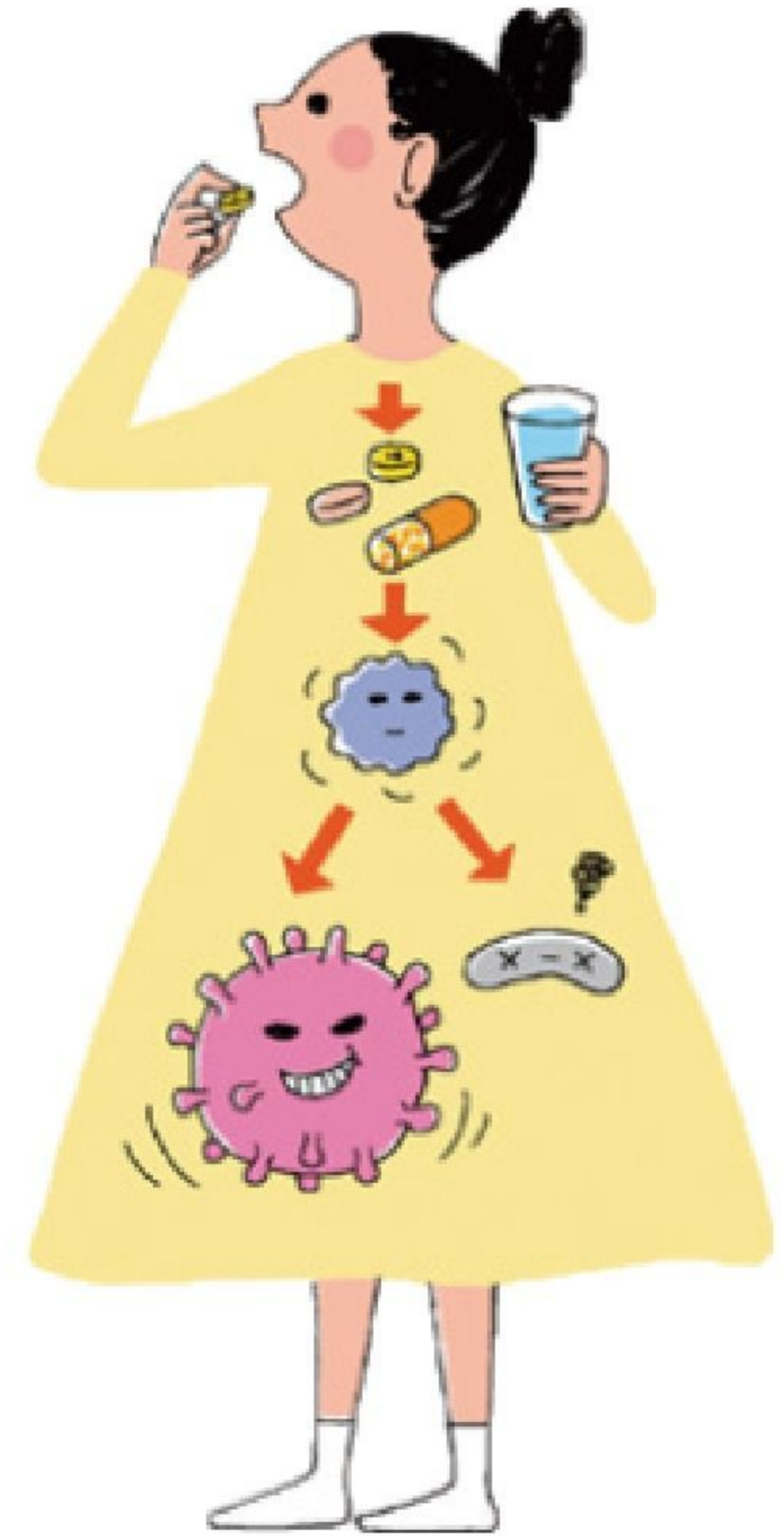
1 人獣共通感染症対策

動物から病気がうつらないようにしましょう
・動物と触れ合った後は特に手洗い・うがいを
・動物とは節度あるふれあいを



2 薬剤耐性菌対策

お薬は正しく使いましょう



3 環境保護

自然や生き物を大切にしましょう



4 人と動物が共に暮らせる社会づくり

動物のことを理解し、より良い関係を保ちましょう
・ペットの習性を知り、それに合った飼育をしましょう
・迷子札やマイクロチップをつけましょう
・ペットは最後まで責任を持って飼いましょう



5 健康づくり

遊びやスポーツを楽しみ、健康を目指しましょう



6 環境と人と動物のより良い関係づくり

食べ物の生産過程を知り、旬のもの、地元のものを食べましょう



もっと詳しく知りたい方は
「6つの基本指針」

https://onehealth.pref.fukuoka.lg.jp/documents/file/education_elementary_school.pdf

「福岡県ワンヘルス推進ポータルサイト」

<https://onehealth.pref.fukuoka.lg.jp/>



ワンヘルスクイズに挑戦!ワンヘルス博士になろう!

<https://onehealth.pref.fukuoka.lg.jp/about-one-health/quiz/>

～ペットとひとの心地よい共生のために～

安心・安全な散歩の為に、ハーネスの使い方を見直してみよう 使用中のハーネスをチェックしよう！

近頃ハーネスを着けて散歩をしている犬(たまに猫も)をよく見かけるようになりました。首輪に比べるとリードが張った時の力が分散するため、より犬猫の身体に負担が少ないと言われてはいますが、使い方によっては抜けやすいなど危険な側面もあります。ここで一度、ハーネスの使い方を見直してみましょう！

🐾 形状やサイズはその犬に合っていますか？

小型種は指が1本入る程度、大型種は2本入る程度に調節しましょう。また、服を着た時と着ていない時のサイズは変わります。都度調節をするかその時々に合わせてハーネスをいくつか準備しておくのも良いでしょう。どちらの場合も安全のために装着時のサイズチェックは忘れずに！

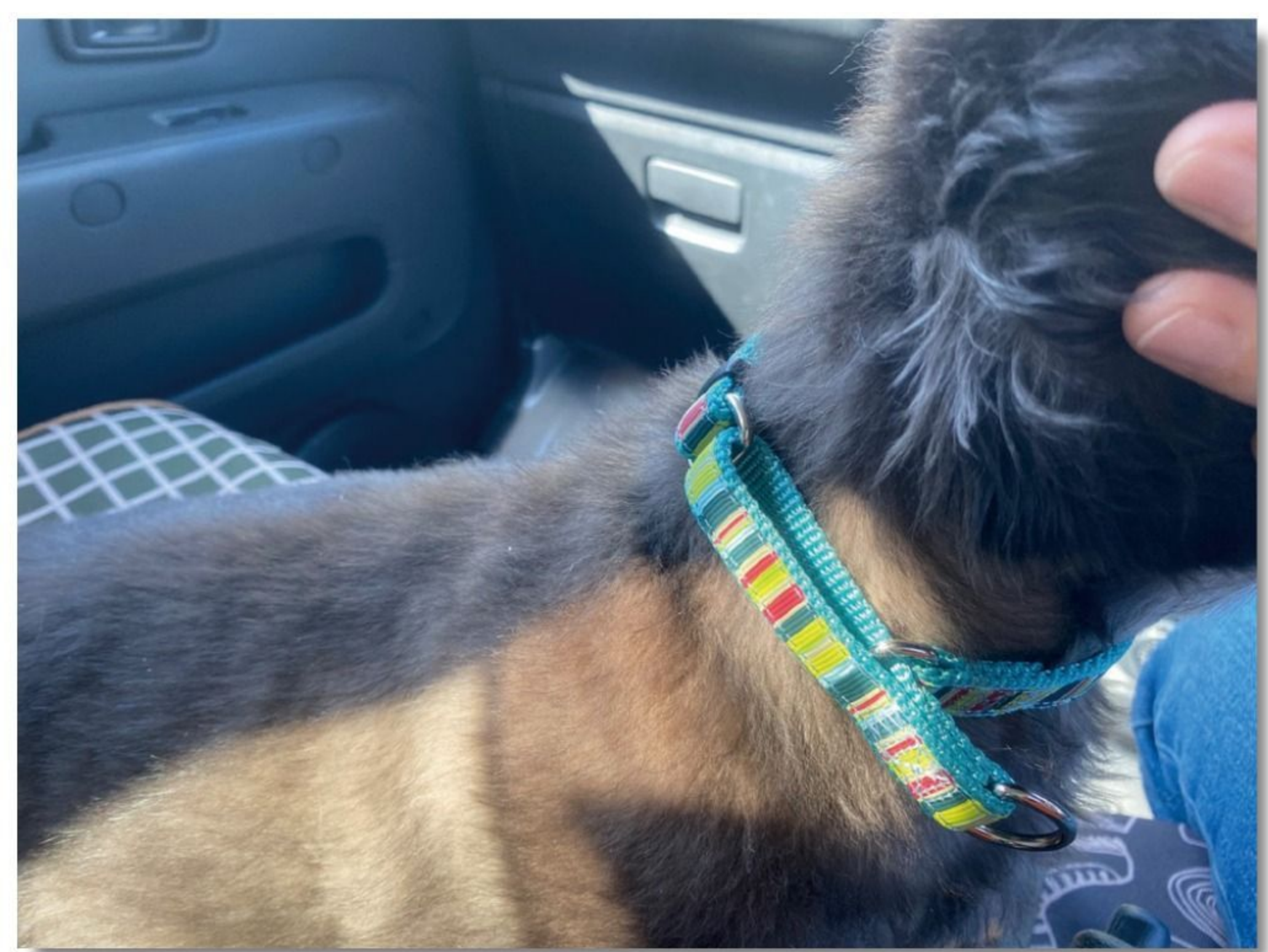
短足種や小型種は前足抜けが起こりやすいようです。調節をしても前足が抜けやすい場合は、ハーネスの形状を見直してみましょう。

🐾 もしもの時のために

抜け防止のために首輪とハーネスを繋ぐ「安全コード」を使用することを強くお勧めします。首輪はマーチンゲールタイプにすると首輪のすっぽ抜けも予防しやすくなり、より強力な逸走対策となります。



安全コード：オレンジ色の部分



マーチンゲール首輪：引っ張るとストッパーまで縮む首輪

散歩中は、犬が下を向いても首輪を引っ張らない長さでハーネスと繋いだ安全コードを使用する。引っ掛かりなどの事故防止のために普段は、ノーマルなバックル首輪の使用がお勧め。



🐾 ハーネス抜けしにくいリードの使い方

ハーネスにつけたリードを後方から張った場合は、犬をしっかりホールドしてくれますが、前方から引っ張るとハーネスが犬の身体から抜けてしまうことが少なくありません。

普段からリードを引っ張って犬を引き寄せせるのではなく、「呼び戻し」を合図でできるように練習しておくとも良いでしょう。

抜けないようにとハーネスをキツくしすぎると不快感から装着時の逃走や咬みつきのなどの問題に発展することもあります。また、ハーネス装着自体がストレスになる犬もいます。そういう場合は、無理をせずハーネスは使用しないようにしたり、どうしてもという場合はプロに相談することも検討しましょう。

ワンポイントアドバイス

「呼び戻し」ができるようになるには

犬を呼び戻せることができると事故や迷子などのトラブルを防ぎやすくなります。

今回は犬が合図で飼い主の足元まで来ることができるようになる練習方法のひとつをご紹介します。



約束と準備：

- ▶ 犬の好きな食べ物を小さく干切って腰につけたポーチなどに入れておく
- ▶ 正解の合図を決める（ここでは「グッド」を使います）
- ▶ 「グッド」の後は犬にとって嬉しいことが起きるようにする
- ▶ 呼び戻しの合図を決める（ここでは「おいで」を使います）



練習手順：

- ①. 食べ物を手の中に握り鼻に近づける
- ②. 犬が手を気にしたところで犬から離れるように2～3歩後ずさる
- ③. 犬がついてきたらすぐに「グッド」と言い、自分の身体の近くで手を開き犬に食べ物を与える
- ④. ①～③を何度か繰り返しスムーズにできるようになったら、①と②の間に「おいで」を追加する
- ⑤. ④を何度か繰り返しスムーズにできるようになったら、①を省略し「おいで」から始める（食べ物は初めから手に持たず、「グッド」の後にポーチから取り出すようにする）
- ⑥. 「グッド」のタイミングを犬が飼い主の近くにきてから言うようする
- ⑦. うまくいくようになったらはじめの立ち位置の犬からの距離を徐々に離していく

練習のポイント：

- ▶ お家など刺激の少ない慣れた場所から始め、少しずつ刺激のある場所でも練習をして、外でもできるようにしていく
- ▶ 公園などで練習する時は長めのリードをつけると安全に練習できる（周囲の迷惑にならないように配慮しましょう）

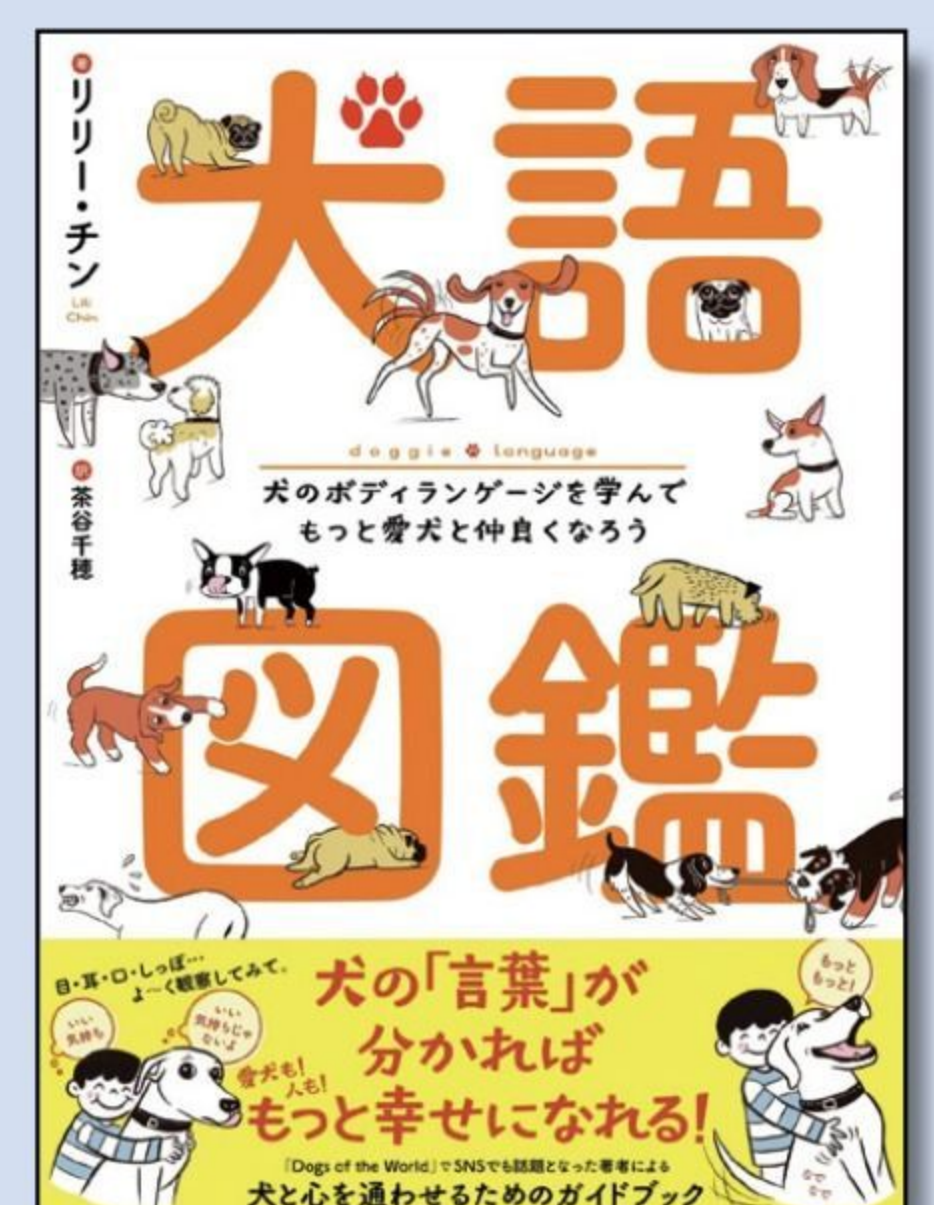


オススメの本の紹介

「犬語図鑑」～犬のボディランゲージを学んでもっと愛犬と仲良くなろう～

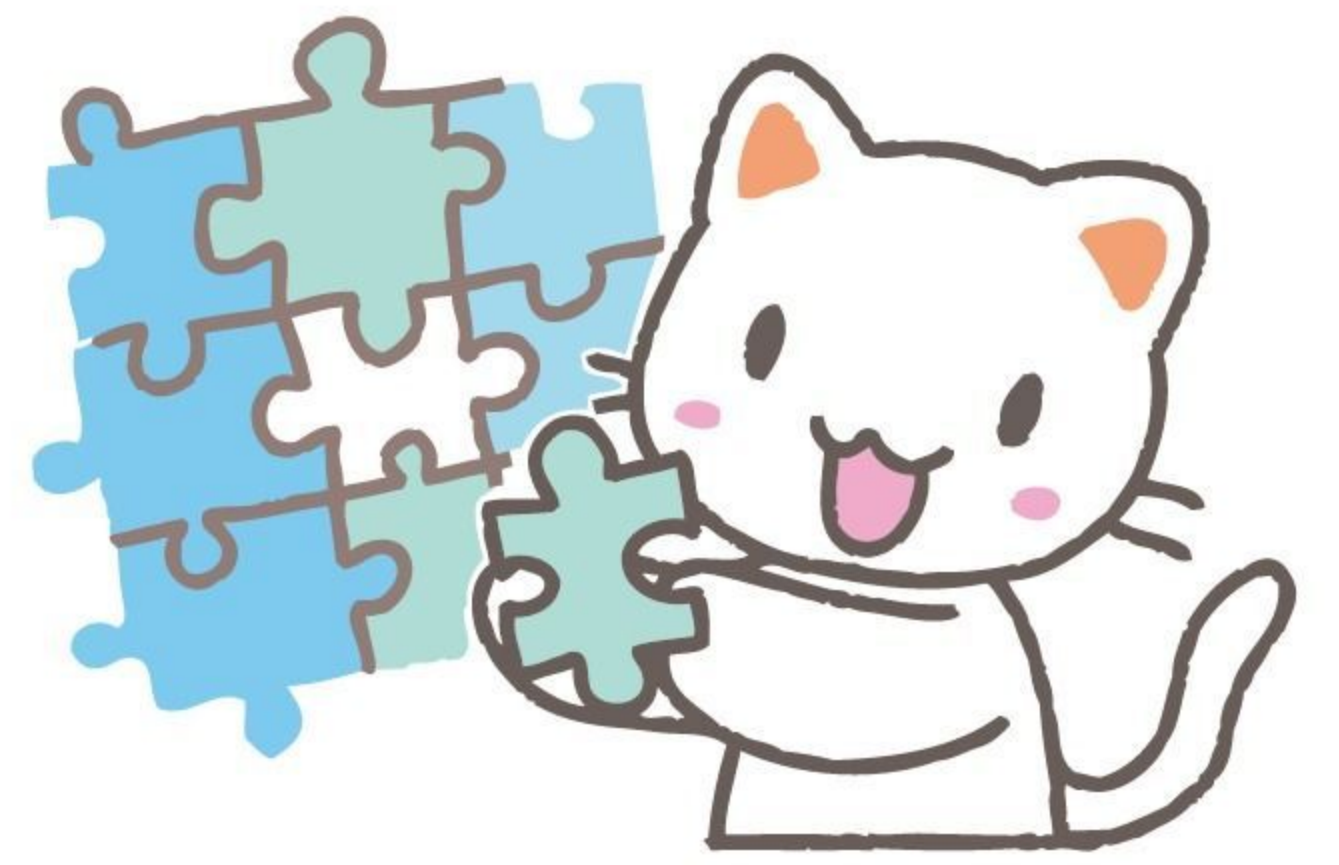
リリー・チン著

尻尾を振っているからといって犬がご機嫌とは限らないし、仰向けになっているからって触って欲しいとも限りません。犬の気持ちを知らず掛かりのひとつであるボディランゲージを全カラーのかわいいイラストでわかりやすく解説している本書は犬と関わる全ての方におすすめです。



画像出典：amazon.co.jp

お助けグッズ「知育トイ」を活用しよう



知育トイとは、食べ物を中に入れたり隠したりして犬猫に与えると、犬猫が試行錯誤しながらその食べ物を取り出して食べるということをするためのおもちゃです。

知育トイを使う目的：

- ▶ 孤独感や手持ち無沙汰感の軽減に
留守番時や家事などで構ってあげられない時に集中できるものがあることで気が紛れる。(吠えやじゃれなどの対策)
- ▶ そこにいて欲しい時に
知育トイに夢中になってもらっている間にお手入れなどを素早く済ませる。(嫌がる場合はこの方法はお勧めできない) クレート滞在練習の補助に。
- ▶ コミュニケーションに
一緒に遊び楽しむことで絆づくりになる。合わせて知育トイの使い方のスキルアップや犬の遊び方の癖などを把握できる。
- ▶ 散歩に行けない時に
荒天などで散歩に行けないなど発散が十分にできない時やエネルギーが有り余っている犬の運動欲求や精神的な満足感を満たす助けとなる。
- ▶ シニア犬猫の運動に
知育トイを使うことで動く理由を作る。食餌を食器ではなく知育トイからにすることで頭や身体の刺激となり、さらに全部取り出すことで達成感や満足感につながる。
- ▶ その他
食器からは食べなくても自分で取り出す面白さが手伝ってか知育トイからだ食べるという個体もいる。

知育トイを上手に活用するためのポイント：

- ▶ 難易度はそれぞれのレベルに合わせてみましょう。初めから難しすぎるとやる気が出る前に飽きてしまいます。
- ▶ 取り出せないのを手伝ってあげていると、取り出してもらおうのを待つようになります。出来るだけ見守りましょう。
- ▶ 留守番時など、飼い主の目がない場面で使用する前には何度も試して安全に遊べることを確認しておきましょう。
- ▶ 飼い主側で知育トイ内に食べ物がないと判断しても、犬猫が興味を示している間は取り上げず見守りましょう。
- ▶ 物を守る傾向が強い犬は使用を控えるか、ドッグトレーニングのプロに相談しましょう。



種類：転がし型・カミカミ型・マット型舐め取り型・パズル型・破壊型など



写真以外にも、知育トイには色々な種類があります。ペットの好みに合わせたものを選ぶようにしましょう。



動画あり！

注意点として、知育トイは消耗品ですので、古くなったら新しい物を使用してください。



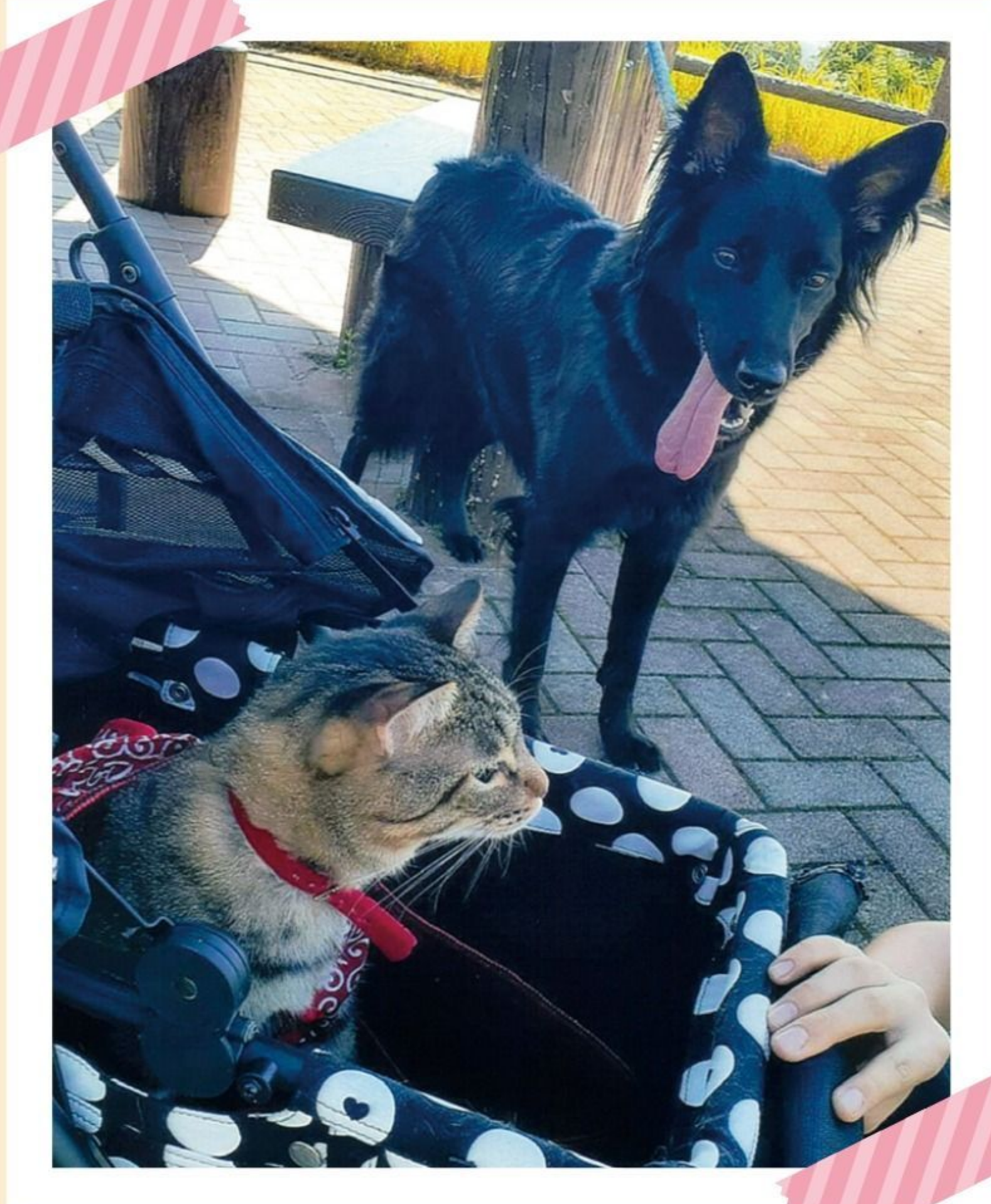
～ 現代猫のこれから ～

昔は猫は外飼いというイメージがありましたが、現在では室内で猫を飼うことが多くなりました。

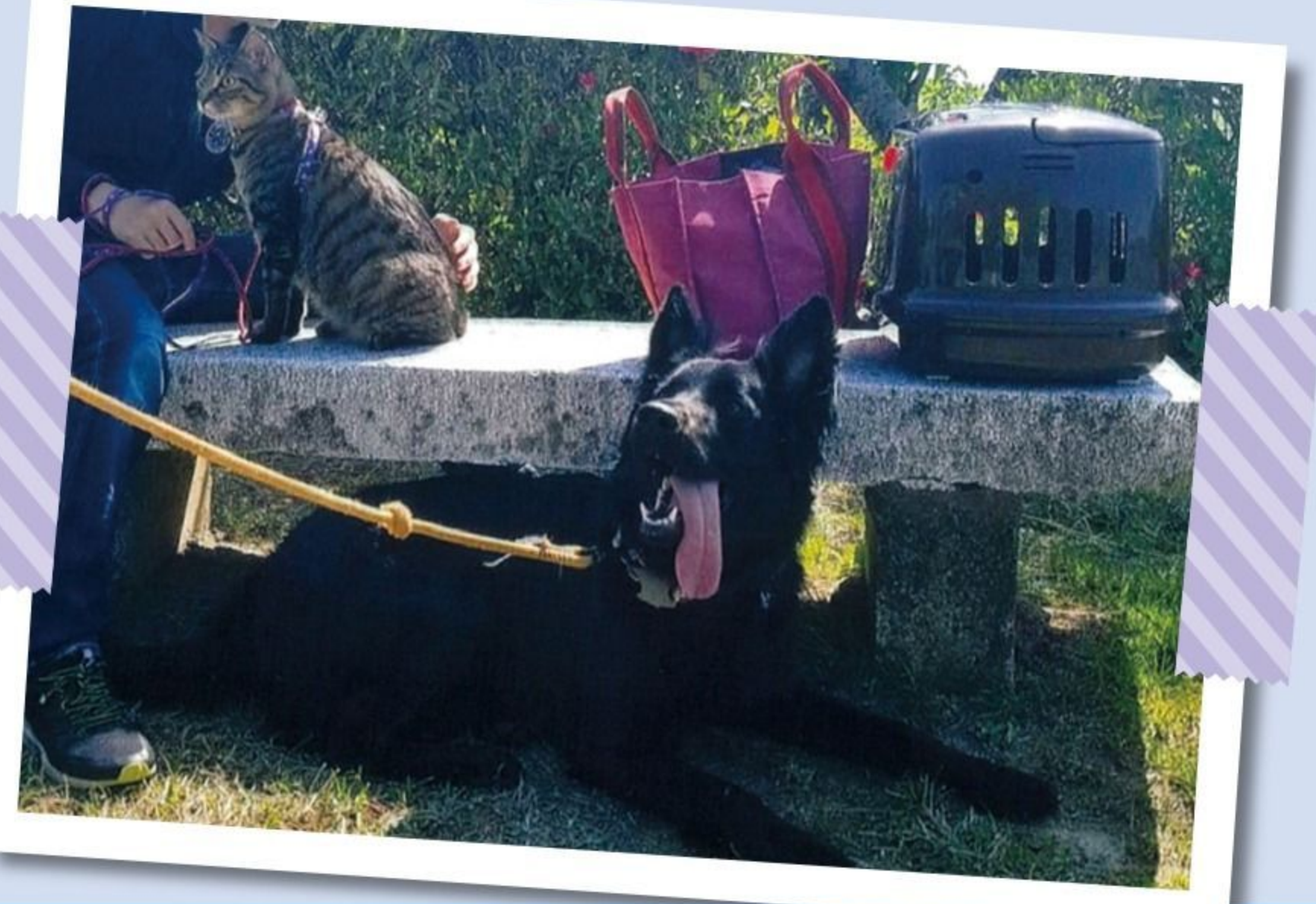
交通事故や病気の感染などのリスクを考えると、室内の方が飼い主も猫も安心・安全に暮らせるのでは。

しかし、「もしも」に備えて外に馴らしておく事も大切！なので

外へ連れ出す目的はストレス発散だけではなく、「もしも」の時のための練習になる。



猫は隠れる場所があると安心するのでネットにいれて、クレートやペットカートで慣らしていくとよいでしょう。



スリングには飛び出し防止のために、ネットにいれてから抱っこするのが一番安全。

両手のあくリュック型は、災害時など避難がしやすくなります。

折り畳み式の簡易ケージやトイレセットやフード、水も非常事態に備えて用意しておくで安心です。



リードや迷子札付きの首輪をしっかりとつけましょう。胴輪は脱げやすいので脱走しないように注意しましょう。



お外のニオイを嗅がせてあげたらいいですね。(首輪とハーネスそれぞれにリードを付けています)



慣れていても決して油断しないで、飼い主のところが一番安心なんだとコミュニケーションをとりましょう。



シニア期の生活のお悩みで一番多いのは、排泄に関することではないでしょうか？

フードの改善、医療の高度化などにより、ペットの長寿化が進んでいます。それに伴い愛犬の老後についての悩みも増えています。

- 帰宅したら排泄物で大変なことになっている
- オムツをしているのに横漏れをしてしまう
- オシッコの回数が増えて色々大変

etc



🐾 帰宅したら排泄物で大変なことになっている

- * いつも粗相する場所や定位置のトイレの段差をなくし、シートだけにして広いスペースに大きめのシートを敷きつめる。
- * 犬の安全性を確保するためのスペースをケージやサークルで作っておく。
- * ぶつかっても痛くない、また脚が挟まらないように、周りを固定したり、クッション性のあるものでカバーする。
- * 人間用のベビーサークルを使うと、ぶつかったり脚をはさむ心配がないのでおすすめ。
- * その中は掃除がしやすいように、また床やカーペットなどが汚れないようにセットする。
- * オムツを利用する。



🐾 オムツをしているのに横漏れ

オムツの中の毛が絡まったり不潔になると皮膚が赤く腫れかぶれてしまったり、悪くなったりします。毛は短くカットしたり、皮膚をノンアルコール無香料などのウェットティッシュで拭いてあげましょう。

既製品のオムツだとその子にあったものがなかなかありません。

そういう時はひと工夫してみましょう。

サイズが合えば、人間の赤ちゃん用のオムツを尻尾の部分に穴を開けその部分から中の凝固剤が出てこないようテーピングなどでガードして使用します。

また生理用ナプキンや尿漏れパッドを併用します。男の子の場合マナーパンツとオムツを併用するという方法もあります。また大型犬は人間の介護用のオムツを使うとサイズがあったりします。

人間用のオムツを犬用にアレンジ

ワンちゃん用は、吸収力が足りず、また大型犬などには足回りや、腰がフィットしないケースもあります。

人間用の尿漏れパッドを中に敷くと、漏れないので安心ですし、経済的にもお得です。



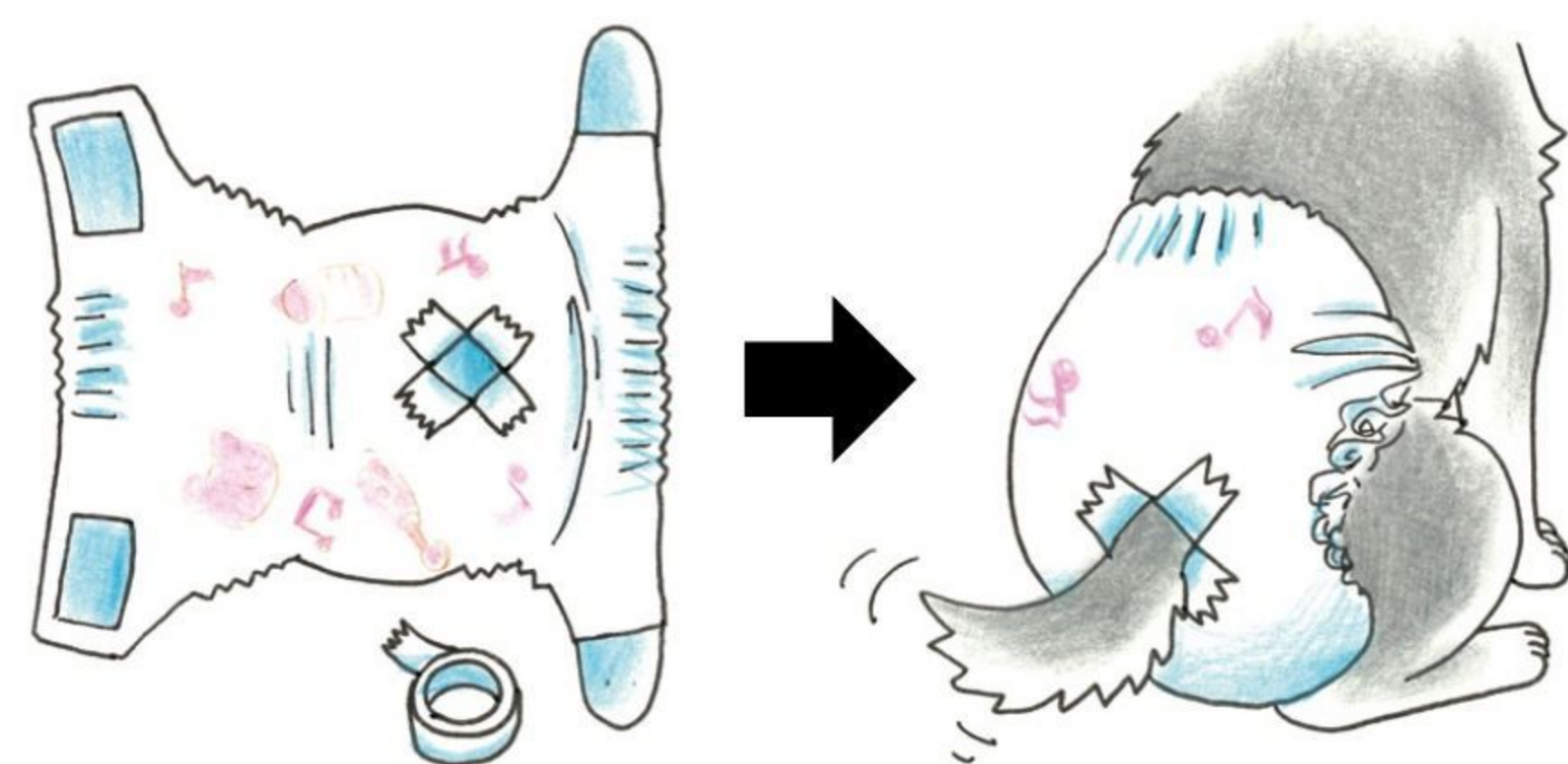
① オムツを半分に折り、ワンちゃんの背中側にくるテープ部分の数センチ下に、ハサミで尻尾用の穴をあけます。

初めは、オムツをワンちゃんに当てながら、穴の位置を調節しましょう！！

② 折った部分に三角形にハサミを入れ、四角い穴を作ります。

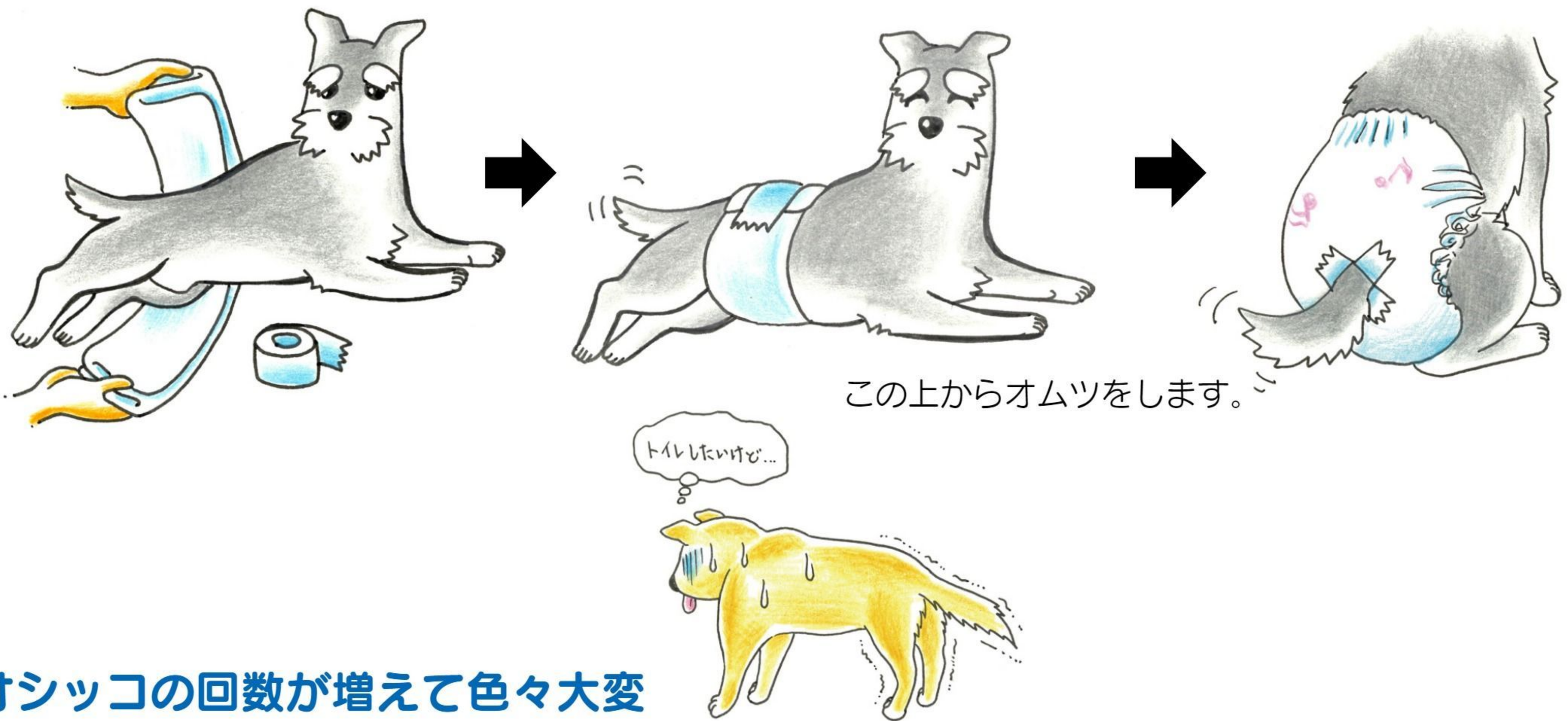
③ 切断面（四辺全て）をサージカルテープで留めます。

ウンチもオムツの中でさせたい時は、穴は塞げる様にしておきます。



男の子は、オムツの中にもう1枚、吸収できる物を入れておきます。

- ① 三つ折りにしたペットシートに、人間用の尿漏れパッド（ヒダはカット）を、ペニスに当たる様に乗せます。
- ② 腰回りにぐるりと巻き、背中の上でガムテープで留めます。



オシッコの回数が増えて色々大変

老犬になると脳の衰えにより排尿命令がうまく伝わらなかったり、筋肉の衰えなどにより膀胱内の尿が出しきれず、頻尿や膀胱炎になったり、トイレまでの移動が間に合わない、排泄のポーズが取れず粗相をしてしまうこともあります。また腸の働きが衰え、便秘や下痢などをする可能性もあります。

動物病院で検査を受け、治療や圧迫排尿のやり方や、食事の与え方の指導を受けるのもよいでしょう。

足腰が弱りしゃがんだり足を上げたりして排泄のポーズを取ることが難しくなると、排泄時にふらついたり転んだりしてしまう、関節が痛いなどの理由から排泄を我慢してしまうことがあります。

体を支えてサポートしたり介護用の歩行補助ハーネスをつけて立たせておきましょう。

また粗相をした時に、叱らないことも大切です。

叱ると犬が排泄を我慢するようになる可能性があり、排泄がスムーズにいかず、老廃物が体に溜まってしまうと病気のリスクが高まります。



排泄のサポート方法

オシッコの場合：足のつけ根あたりを左右から両手で支えて、中腰の姿勢をとらせます。

ウンチの場合：片手でおしりを支えて、片手で汚れないように尻尾を上げ、中腰の姿勢をとらせます。

オスは足を上げさせてもOK

オスで足を上げたほうが排泄しやすいのなら、足を持ち上げてあげると体も汚れにくくなります。



POINT

犬がいちばん排泄しやすい、慣れているポーズがとれるように、サポートしてあげましょう。



オシッコの場合



ウンチの場合



オスの足上げ

人間の介護と同じように、老犬の介護も心身ともに疲れ果てる方もいらっしゃいます。

老犬介護のホームやペットシッターに相談してみましょう。

犬もご家族様も笑顔で最後まで貴重な時間を過ごせると幸せだと思います。